

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 商会 No.22【持分法】

収録日：平成 25 年 9 月 18 日

【出題実績】

日商出題傾向：117 回（B/S・P/L）・122 回会計学・126 回（B/S・P/L）

全経出題傾向：

	検定簿記講義(商簿)	サク	スッキリ	教科書
ページ数	2	26	24	
持分法	×	◎	◎	
株式取得時	×	◎	◎	
当期の処理	×	◎	◎	
開始仕訳	×	◎	◎	
関連会社株式の売却	×	×	◎	
未実現損益	×	◎	◎	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
（「弱い」は「ない」を含みます）

弥生の親会社だったライブドアがニッポン放送にしかけた株式争奪戦
記憶のある方も多いと思います。
あれは、20%の攻防だったのですね。

今日の論点は、＜20%の論点＝持分法＞の論点です

持分法は連結会計の少数株主側の処理と考えればわかりやすい

連結会計②で実施した問題（評価差額だけ加えました）を少数株主の立場で考えよう

【問題】

P社は平成×5年3月31日にA社の発行済株式(S社株式)の20%を¥2,000で取得した。
以下の資料にもとづいて、当期(平成×5年4月1日から平成×6年3月31日)の連結財務諸表を作成するための、(1)開始仕訳と(2)連結修正仕訳を示しなさい。

●資料●

1. 平成×5年3月31日のS社の貸借対照表は次のとおり。なお、諸資産の時価は14,000円である。諸負債の帳簿価額と時価は一致している。

諸資産	13,000	諸負債	5,000
		資本金	6,000
		利益剰余金	2,000
	<u>13,000</u>		<u>13,000</u>

2. P社、A社ともに決算日は3月31日である。
3. のれんは発生年度の翌年から20年間で毎年定額を償却する。
4. 当期にA社は当期純利益¥1,500を計上した。

<考え方>

処理方法は連結とまったく同じ

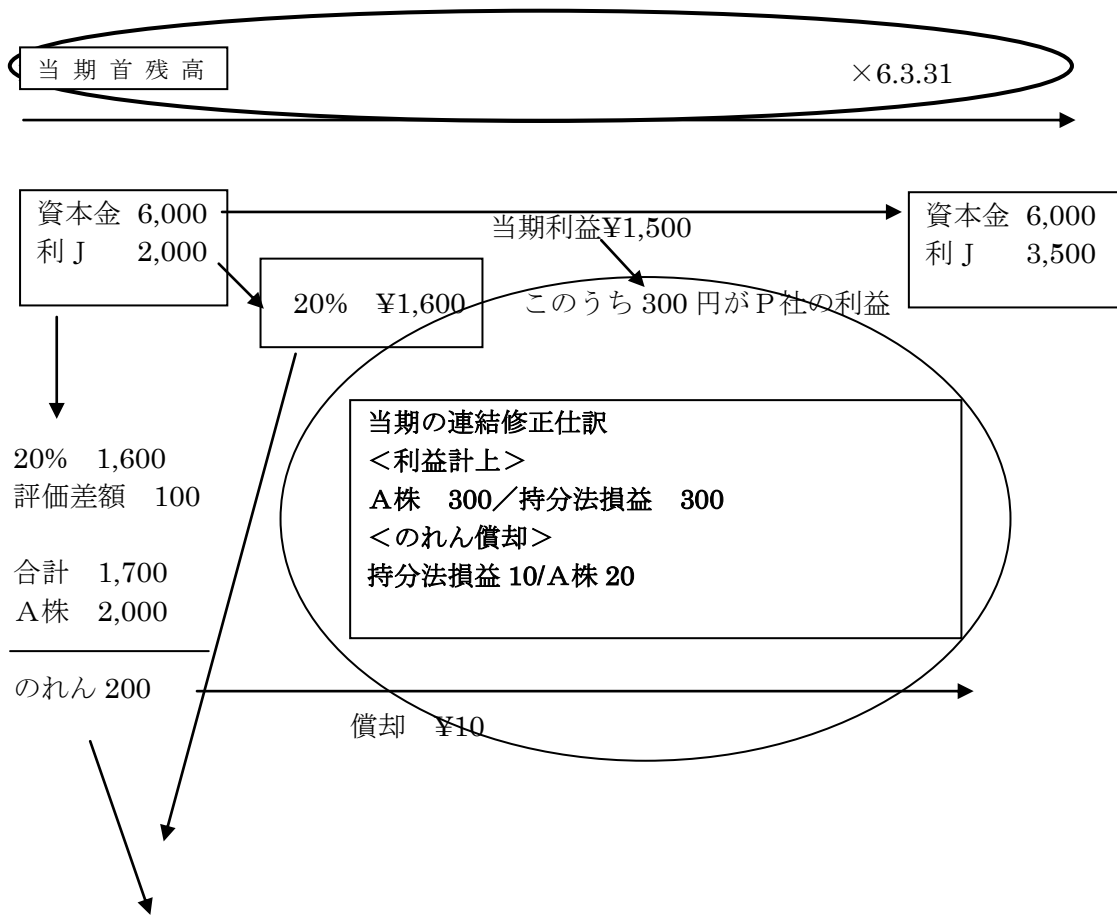
評価差額や未実現利益はP社の持分だけ（上の例は20%）で計算する

財務諸表を合算する訳ではないので、投資と資本の相殺消去は行わない

一部の取引を除いては、すべてA社株式 a/c と持分法による投資損益 a/c で処理をする
(持分法損益は有価証券評価損益みたいなものだから営業外損益です)

<一部の取引って？>

未実現利益の消去や、それに伴う税効果会計で財務諸表を合算していないがゆえに他の科目を使う必要があるという事だけ覚えておけば良い



この2つは2年目の連結時には開始仕訳となる

でも簡単

普通に仕訳して、A株はそのまま、持分法損益は利益剰余金当期首残高にすれば良い

基準では、「のれん」と書いていますが、のれんをB/S表示する訳ではないので仕訳はしません。

評価差額の計算も、正しい「のれん価値算出」のために行いますが仕訳をする訳ではありません

< 配当金の処理 >

さきほどの事例でA社が合計 1,000 円の配当したと考えよう

P社の個別財務諸表では

現金（未収入金） 200 円 / 受取配当金 200 円

持分法を適用するという事は、連結 F / S 作成が前提だから、受取配当金は計上される

持分法適用会社にも、重要な影響力あるので 20% はグループ内の取引と考えます。

A社の配当金のうち 80% はグループ外に流出したと考えます。

でも 20% は？ グループ内に残っていますね。

という事はグループ内部の金庫間の移動と考えて、内部取引を修正します

相手科目は、A社の純資産が減ったのだから、A社の純資産をあらわすA株を減らします

受取配当金 200 / A株 200

< 未実現利益の消去の仕訳 >

これも連結と同じですが、20%分という事だけ注意して下さい

A社の個別 F / S は合算していません。

各テキストで説明している相手科目の説明が難しいとおっしゃる方が多いです。

使用科目の考え方です。

<< 合算時に使用した科目はその科目を使う。使用していない科目はA株か持分法損益を使う

このイメージでテキストを読んでください

ここからはダウンロード講座です

日商簿記 122 回会計学と 126 回商業簿記の該当部分を説明します

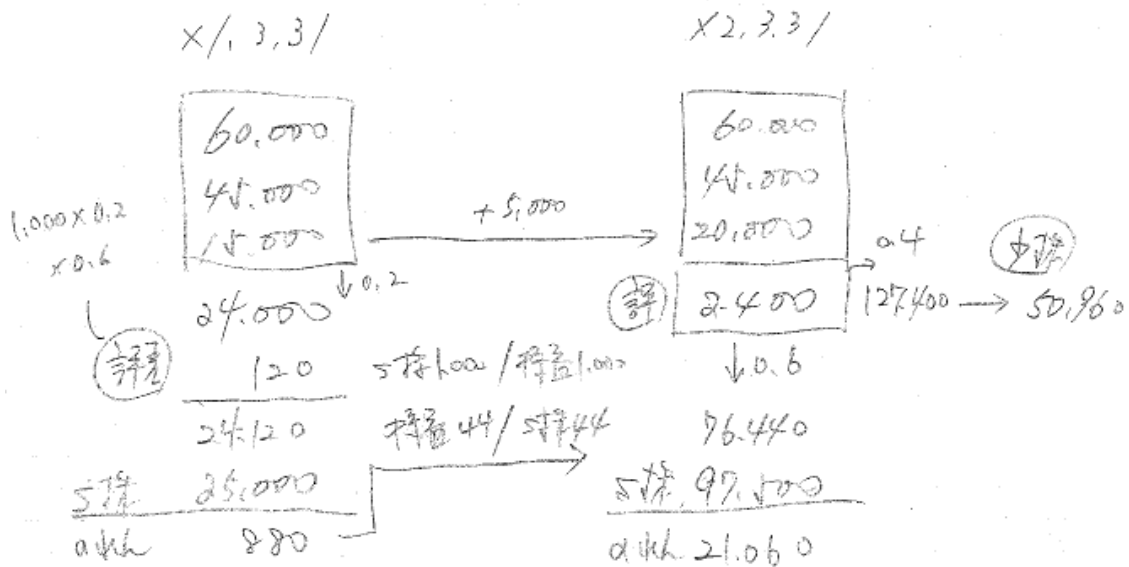
[22回 会計学]

X1.4.1 X2.3.31 X3.3.31

$\boxed{30,000} \xrightarrow{+1,000 \triangle \text{株}}$ $\begin{array}{r} \times 0.3 \\ = 9,000 \\ \text{株} \quad 900 \\ \hline 9,900 \\ \text{A株} \quad 13,000 \\ \text{株} \quad 3,100 \end{array}$	$\begin{array}{l} \text{A株} 300 / \text{株益} 300 \\ \text{戻配} 180 / \text{A株} 180 \\ \text{株益} 310 / \text{A株} 310 \end{array}$	$\begin{array}{l} +1,800 \quad 4,800 \rightarrow \\ \text{株} \textcircled{190} / \text{A株} 190 \\ \text{A株} 540 / \text{株益} 540 \\ \text{戻配} 240 / \text{A株} 240 \\ \text{株益} 310 / \text{A株} 310 \end{array}$
---	--	--

<p style="text-align: center;">A</p> $\begin{array}{r} 900 \\ \times 0.4 \\ = 360 \\ \text{(全額株)} \\ \text{株上高} 360 / \text{A株} 360 \\ \text{株益} 144 / \text{法調} 144 \\ \text{A株} \textcircled{12.450} \end{array}$ <p style="text-align: center;">But 問題文A株0.1</p>	<p style="text-align: center;">A</p> $\begin{array}{r} 800 \\ \times 0.4 \\ = 320 \\ (=) \\ \text{株上高} 360 / \text{A株} 360 \\ \text{株益} 144 / \text{株上} 144 \\ \text{A株} 360 / \text{株上} 360 \\ \text{法調} 144 / \text{株益} 144 \\ \text{株上高} 320 / \text{A株} 320 \\ \text{株益} 128 / \text{法調} 128 \\ \text{A株} \textcircled{12.480} \end{array}$
---	---

126回商簿 (持分法部分)



5株 7,500 / 益 7,500

① 956

② 6,544

